



新しい本が入りました！ ※別紙一覧表をご覧ください。

★七夕飾り 図書委員会企画



短冊156枚、皆さんの願いが叶いますように！！

図書委員会企画の『七夕飾り』盛況のうちに終わりました。  
156枚という過去最多の短冊に込められた皆さんの願い、どうか叶いますように…！！

夏休みの真最中、暑い日が続いておりますが、図書館は通常通り開館しています。

夏季休業期間の無制限貸出も継続中！！

涼しい図書館で読書に浸るのも暑い夏の過ごし方ですよ。

新着図書も入りましたので是非ご利用を！！

◆ 貸出冊数無制限期間 8月31日(火)まで利用できます。  
返却期限 9月1日(水)

8月のカレンダー (変更になる場合があります) ※グレーは休館

日	月	火	水	木	金	土
8/1	2 冊数無制限貸出継続中(8月31日まで)	3	4 学校見学会	5	6	7
8 山の日	9 休日	10	11	12 閉庁日	13 閉庁日	14
15	16	17	18	19	20	21 学校見学会
22	23	24	25	26	27	28
29	30 閉庁日	31 夏季休業日終	9/1 始業式 図書返却日	2	3	4 土曜授業 午後閉館

## 《話題の図書の中から》

『アフリカ人学長 サコ、ウスビ』 京都修行中 (文藝春秋)

空間人類学を専門とする著者が京都人を分析。「一見さんお断り」はサービス精神の裏返し。「遠回しなモノ言ひ」は「よそさん」への気づかい。そんな京都を舞台に、外国人学者の30年を描いた一冊。



『計算する生命』 森田 真生 (新潮社)

『数学する身体』で小林秀雄賞を受賞。それから5年、計算によって未来を拓いてきた人類の歴史を解き明かし、壮大な計算の成立史に組み込まれた生命の本質に迫った一冊。



『気候を操作する - 温暖化対策の危険な「最終手段」』 杉山 昌広 (KADOKAWA)

進む温暖化、止まらない気候変動、温室効果ガス排出量ゼロなどの対策を打ち出す各国。そして欧米を中心に注目を集めている技術「気候工学」。「大気中からCO2を直接回収する」「成層圏に微粒子を撒いて太陽光を遮る」など、温暖化対策の「最終手段」についてその効果・危険性を解説する。



『分水嶺 ドキュメントコロナ対策専門家会議』 河合 香織 (岩波書店)

新型コロナウイルスに対して、日本でもとられた「クラスター対策」や「3密回避」、その対策の指針を示した「専門家会議」での議論とは？度々の記者会見、自粛要請、そして緊急事態宣言へ、会議廃止までの約五カ月、専門家たちの議論と苦悩を関係者の証言を交えて描くノンフィクション。



『逃亡者の社会学 アメリカの都市に生きる黒人たち』 ゴッフマン, アリス【著】 二文字屋 脩、岸下 卓史【訳】 (亜紀書房)

フィラデルフィアの黒人居住区に入った著者は、警察に追われる男たち、彼らを支える女性や家族の実態を明らかにする。犯罪が日常化した暮らし、巨大な司法システムなど、アメリカの黒人たちを取り巻く現実に迫る一冊。



### 学習支援図書の中から

『日本史「今日は何の日」事典』 吉川弘文館編【編】 (吉川弘文館)

正確な日付に西暦換算年月日を併記し、その日に起きた出来事が分かる事典。日付ごとに出版を記載し、暦に関するコラムや付録も掲載したカレンダー。



『「数学をする」ってどういうこと？』 小山 信也 (技術評論社)

数学をするってどういうこと？数学者ってどんな仕事をしているの？という素朴な質問に「ゼータ先生」が真正面から答える。コロナ禍でよく見聞きする数値のことや、有名なパラドックス「アキレスと亀」や無限など人類がおかしてきた誤解の歴史にも迫り、素数にまつわるリーマン予想へと話は展開。



## 《夏休みにオススメの一冊》

『失われたものたちの本』 コナリー, ジョン【著】 田内 志文【訳】 (創元推理文庫)

母親を亡くした、12歳のデイヴィッドは、母の声に導かれある王国に迷い込む。狼に恋した赤ずきんが産んだ人狼、醜い白雪姫、子どもをさらうねじくれ男。そこはおとぎ話の人物や神話の怪物たちが生きる、美しく残酷な世界だった。デイヴィッドは元の世界に戻るため、『失われたものたちの本』を探し求め旅に出る。



◆ 全米図書館協会 アレックス賞受賞作

『あの夏の正解』 早見 和真 (新潮社)

2020年、新型コロナ拡大により選抜に続いて夏の甲子園も中止。夢を奪われた強豪校の球児と指導者は何を思い、どう行動したのか。愛媛県の済美と石川県の星稜、強豪2校に密着した著者が、彼らに向き合い、「甲子園のない夏」の意味を問い続けた一冊。パンデミックに翻弄され、挑戦することさえ許されなかった人々に語りかける「あの夏」の物語。



『その扉をたたく音』 瀬尾 まいこ (集英社)

ミュージシャンへの夢を捨てきれないまま、日々を過ごしていた宮路。ある日演奏に訪れた老人ホームで、驚きのサクスの音を聞く。吹いていたのは、ホームの介護士・渡部。その音色に興奮した宮路は、ホームに通いつめ、やがて入居者とも親しくなる。人生に思い悩み暮らす青年と、老人ホームの大人たちの交流を描く長編小説。

